

## 告 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんのご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、今日の日を待ち望んでおられましたご家族・保護者の皆様に、衷心よりお慶びを申し上げます。

本日、ご多用中にも関わりませずお越しいただきましたご来賓の皆様、並びにご教授頂いてまいりました学外講師の先生方のご臨席を賜りまして、医療法人弘仁会 熊本総合医療リハビリテーション学院の卒業式を挙行できますこと、厚く御礼を申し上げる次第でございます。

今年度、理学療法学科 42 名、作業療法学科 37 名、臨床工学学科 38 名、義肢装具学科 11 名、救急救命学科 28 名、計 156 名の卒業生の皆さんを晴れて社会にお送りすることができました。

卒業生の皆さんは、それぞれ 2 年前、又 3 年前、又は 4 年前に、医療の専門職を目指して本学の門をくぐって頂きました。

あの日以来、皆さんは自ら描いた希望の実現に向かって、日々の勉学への努力を惜しむことなく研鑽を重ね、充実した学生生活を送って頂いてまいりました。しかし、皆さんにとりまして、これまでの学生生活は必ずしも順調ではなかったように思います。

一昨年 4 月、皆さんが新たな気持ちで勉学をスタートした矢先、思いもよらない大震災、熊本地震に遭遇致しました。あの大きな混乱と不安、そして多くの困難さの中で共に教育に向き合って頂き、厳しきハードルを乗り越えながら立ち上がり、努力を重ねてこられました。

毎日の授業を通して、医療専門職に求められる膨大且つ難解な専門的な知識や技術の修得に取り組んで頂きました。また、長期にわたる臨床実習・臨地実習における貴重な体験を通して、チーム医療の一員に必要なとされる専門的な実践力、応用力を学び修得されてこられました。

入学以来、非常に多くの専門について学修され、お一人おひとりが自分の専門力を積み上げてこられ、最終目標であった国家試験の合格に向けて集中力を高め、一意専心に国家試験対策に取り組んで頂いてまいりました。

国家試験は、2 月 23 日に行われた義肢装具学科の試験を皮切りに、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学学科の試験が終了し、最後に今週の日曜日、救急救命学科の皆さんが国家試験に臨んで頂くことになっております。

皆さんがこれまで培ってこられた専門的な知力と学識は、国家資格取得には十分な専門力であり、また、それ以上の専門能力を修得されたものと確信を致

しております。

更に、本学における専門教育を通して、自ら学び育む自己教育力に研鑽を積み、また、専門的な課題解決能力を練磨されてこられた皆さんに心から敬意を表すると共に、これまで一緒に学びに向き合った教職員を代表し、ここに感謝の意をお伝えする次第でございます。

皆さんがこれから参画し、自らを飛躍させる場となる現代社会は、まさに大きな変動の渦中にあります。

かつて歴史の教科書で学ばれたように、第一次産業革命と呼ばれた時代が18世紀後半に始まりました。その後、第二次産業革命の時代を経て、皆さんが学び育てこられたこの時代。すなわち、IT技術による第三次産業革命の時代は、今、一つの区切りのページを迎えようとしています。

これからこの社会は、よりグローバルな第四次産業革命の時代に向かって、新たなページを開こうとしているように思われます。

膨脹化している大量のデータから新たな価値を生み出すビッグデータの社会、私たちの生活の身近にあるモノがネットワーク化されるIoTの社会、人の持つ知的な能力を機械的に創り出す人工知能、AI・ロボットの社会など、これからの産業構造は大きく変革していくことになるでしょう。

このような動向は、医療や介護の現場における新たな治療や診断、付加価値の高い支援技術など、創出していくことも期待されております。

一方、我が国を取巻く社会的環境は、一層のグローバル化が進むなかで、政治的にも経済的にも不安定さと不確実性が増していくようにも思われます。

また、人類史上類の無い我が国の高齢化は、医療職として進む皆さんにとって直近の課題として、向き合い取り組んで頂くことにならうかと思えます。

社会の構造や有り様が、大きくしかも急峻に変化しつつある将来への予見は、極めて困難なことではありますが、先人の歴史が示しているように、自分の進むべき道は皆さん自身の意志の力をもって、必ずや切り開くことができる。私は、思います。

本学を巣立つ皆さんの双肩には、大きな期待がかかっております。皆さんがその期待に応えて、地域の皆様に貢献する有能な医療専門職として、また、一流人としてご活躍されることを期待し願っております。

明日からの人生においては、様々な出会いが待っていることでしょう。

もちろん、楽しいことも多く待ち受けているでしょうが、つらい悲しい出会いもあります。あの熊本地震のときがそうだったように、これからも思わぬ厳しい課題に遭遇することも出てまいります。

人生は、自分の描いていたように進むことばかりではありません。むしろ、思ったようにいかないことが多いものです。そのようなとき、立ち止まってゆっくりと見つめ直すことも必要となります。あせることはありません。そのとき出来ることをほんの少しだけ前に進めること。再び、生きる自信が戻ってまいります。困難さの多い社会であったとしても、へこたれない強さを自分の力で作っていくことができます。

私たち教職員は、いつでも皆さんの力になるべく応援致しております。

皆さんが、本日、今、抱いているその達成感と充実感を思い起こしながら、これからの実り多い豊かな人生を、着実に、力強く、歩んで頂けることを祈念致しまして、告辞と致します。

平成30年3月6日

熊本総合医療リハビリテーション学院

学院長 辻野智二